

## ISRE 2024(ベルファスト)に参加して

福井義一(甲南大学)

去る 2024 年 7 月 17 日～20 日に北アイルランドのベルファストで開催された ISRE の学術大会に参加した。感情心理学者の端くれとして、一度は参加したいと思いつながらなかなか果たせていなかったが、今回は在外研究でドイツに滞在中であったという好条件が重なったため、思い切って参加してみた。

たまたま 1 年ほど前に別の学会でベルファストには赴いたことがあり、今回が 2 回目の訪問であったので、土地勘が残っていて何かと動きやすかった。7 月下旬なのに、最高気温は 20 度をちょっと超えるぐらいで、晴れ間が少ないのも手伝って、過ごしやすいのを通り越して少し寒いという体感であった。会場から電車で一本のところにあるホテルを取ったのだが、会場の最寄り駅が改修で閉鎖されており、バスを乗り継いで会場へ行く羽目になった。イギリスらしい二階建ての路線バスの二階の最前方の席に座ると、バスの屋根に街路樹の枝がゴゴンと打ち付ける音にビックリさせられる。目的のバス停で降りると、レンガ造りのひととき美しい建物が目につき、どこの王宮かとフラフラと近づくと、それが会場であるクイーンズ大学の建物(写真参照)であった。ヨーロッパの大学は、どこも軒並み建物が美しい。

名札をつけた参加者たちをちらほらと見かけるものの、レセプションが見つからず彷徨うこと半時間ほど、ようやく降りたバス停近くに発見してチェックインした。私の関心領域は、情動調整と解離、情動認知、共感性の辺りなので、スマホの Whova というイベント・アプリ(大会運営側が公式に使用を推奨していた)を片手にキーワード検索して、フラフラと興味が赴くままに渡り歩いた。自身の発表は、19 日の午後に割り当てられており、解離の次元性についてタキソメトリック分析を使って検討した結果を報

告した。ご存じの通り、感情そのものについて次元説とカテゴリー説の長年にわたる議論があり、一部の参加者とはその観点からもディスカッションできて楽しかった。参加の合間には、大学のすぐ近くにある美しい植物園(入場無料)を散歩したり、アルスター国立博物館を訪ねたりした。

私は社交場面が苦手というか嫌いなので、Gala Dinner のようなソーシャル・イベントには大抵不参加なのだが、大会事務局からウェルカム・レセプション会場(ストーモントと呼ばれる北アイルランド議会議事堂)の定員の都合で、そこに参加する代わりに追加料金無しでいいのでディナーの方に参加しないかという異例のオファーがあり、それならと乗り換えた。会場はタイタニック博物館のスイートルームで、1 年前にここを訪ねたときには、よもや 1 年後に同じ場所で学会ディナーに参加することになるとは予想だにできなかった。全体的に、大会運営はスムーズでそつがなく、海外の学会にありがちな雑な感じはほとんどなかった。余談ではあるが、この会場近くに、1 年前にオープンしたばかりのタイタニックという名のウイスキー蒸留所があって、2 回目の訪問を楽しみにしていた。今回、無事にそのミッションを果たすことができたのが、アカデミックとは無縁の個人的収穫である。

翌週にプラハで国際心理学会(ICP)があった影響か、日本人の参加者はかなり少なかった。次回大会は、もっと多くの学会員のみなさまにも参加してもらいたい。

